



# あつつあつ



～みんなの学習クラブタブレットを活用した自己調整力の育成～



## 学習紹介

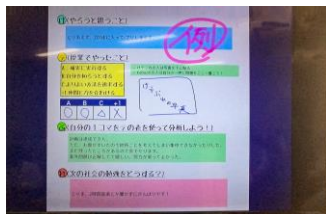
みんなの学習クラブタブレットを活用して自己調整力の育成を図る学習方法があります。

### ①今日の学習内容を掲示（課題を知る）



はじめに、先生から今日の学習と流れを説明します。生徒は、みんなの学習クラブのiプリ・入試問題、ワーク、KAHOOT!の問題作りの中から自分で学習を選びます。

### ②計画を入力して提出（計画を立てる）



先生からロイロノートでワークシートを配付します。生徒は、どんな学習をするか、【やろうと思うこと】に今日の計画を考えて、ワークシートに入力します。先生に提出後、学習へ進みます。



詳しくは  
こちら→



### ③iプリでテスト（学び方を決め、学習を進める）



ノートまたはタブレットで学習しやすい方法を選ぶ



家庭学習用のプリントをロイロノートへダウンロード

生徒はそれぞれの計画に沿って、学習を始めます。どのくらい理解できているかをiプリなどでテストします。生徒は、自分の課題を見つけ、自分の学習しやすい方法で学習を進めます。



画面を半分にして答え合わせ



タブレットに直接記述して学習

### ④振り返り（学び方や学んだこと等を振り返る）

### ⑤次の学習を決める（次の学習に活かす）



残り10分で学習の振り返りをワークシートにまとめます。学習したノートは写真を撮り、ワークシートに貼り、今日の学習の分析と、次の学習を入力します。

## 使い方

### ステップ1



各校専用 URL でログイン画面にアクセスし、学校から発行されたユーザーIDとパスワードを入力

詳しくは  
こちら→



### ステップ2

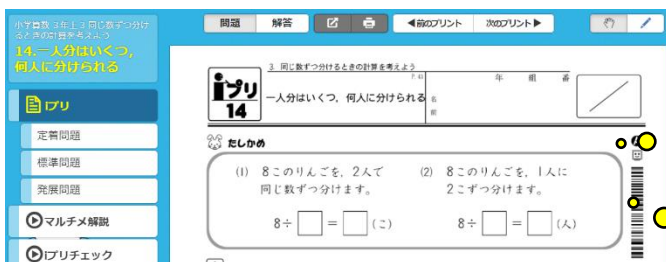
学習する内容を選びましょう。

iプリ 入試問題

1.教科	2.教科書	3.学年	4.単元	5.項目	6.問題
小学算数	標準	1年上	1 九九を見なおそう	1 時ごとと時間のもめ方	9 短い時間
小学国語	東京書籍	1年下	2 時ごとと時間のもめ方を考えよう	2 短い時間	
小学英語	啓林館	2年上		4 文法問題	

教科→教科書→学年→単元→項目→問題を選択

### ステップ3



印刷したプリントで学習、タブレットに直接書き込んで学習など

### 自主的な

### 家庭学習での活用も

授業の  
予習や復習に

苦手克服や  
得意の伸長に

まなぶ つ なぐ みらい

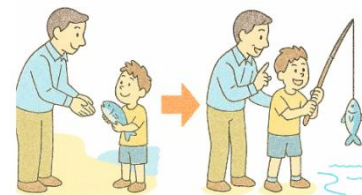
津市GIGAスクール構想 教育×ICT

## あつつあつ



## “教えてもらう”⇒⇒“自ら学ぶ”をめざして

将来の予測が困難な時代を生き抜いていく力を育成するため、多様な子どもたちが誰一人取り残されない授業づくりの手掛かりとなるよう、津市版授業改善マニュアル（学び方編）を作成しました。



教師は答えを教えるのではなく、子どもたちが自分で考えたり友達と話し合ったりしながら「どのように学べばいいのか」を繰り返し考えることを通して、自ら学びに向かうために必要な力を身につけることができるような授業をめざします。

例えば、「魚を与える」のではなく、「魚の捕まえ方を見つける、魚の釣り方を覚える」という経験を通して、子どもたちが自ら学び続ける力を育みます。

## 自ら選んで学びを進めるために必要な力は？

自ら選んで学びを進めるためには、自己調整する力と、情報活用能力を育む必要があります。

これらの力を育むためには、普段の授業の中で「疑問を見つける」や、「学びをふりかえる」「次につなげる」といった経験が大切です。

「課題の設定」や「授業のまとめ」を先生だけが行うのではなく、子どもたちが試行錯誤しながら学習を進めることを経験することで、必要な力が身につけていきます。



## 自ら選んで学びを進めるために必要な力

## 自己調整する力

自分の気持ちや考え、行動を見返しながら、目標に合わせてうまく調整する力。自分をコントロールして粘り強く取り組む力。

## 情報活用能力

必要な情報を集めて、比べて、わかりやすくまとめたり、人に伝えたりする力。外からの情報を上手く使って生かす力。

## 子どもたちが学び方のサイクルを身に付けるために



この5つの場面は、探究的な学習の過程であり、文部科学省の教育課程企画特別部会においても「質の高い探究的な学び」は、子どもたちを取り巻くこれからの社会に必要な力として整理がなされています。

例えば「課題の設定」の場面では、問いを広げる力や時間を決める力等の自己調整する力を働かせることで、学習の計画をたてる力等の情報活用能力が育ちます。また「情報の収集」や「整理・分析」の場面では、必要な情報を取捨選択する力等の情報活用能力を働かせることで、学習をチェック、コントロールする力等の自己調整する力が育まれます。

子どもたちは、単元を見通した学習を進める中で、各場面で自己調整する力や情報活用能力を働かせ、自ら選択して学びのサイクルを進めその学びを振り返ることを通して、少しずつ学びに向かう力が育っていきます。

ここでの教師の役割は、子どもたちがどのような力を働かせようとしているか、どのような力を伸ばせばよいかといった一人一人の強みや弱みを見とり、適切な関わりを通してサポートすることが求められます。

## ◆津市版授業改善マニュアル（学び方編）を作成する際に参考にした資料等

・情報活用能力の育成(文部科学省)



・文部科学省 中央教育審議会 初等中等教育分科会  
教育課程部会 教育課程企画特別部会 開催資料等



・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための  
サポートマガジン“みるみる”（文部科学省）



・情報学習支援ツール AK-Learning（桃山学院大学 木村明憲 准教授）

